



Sun A. Kaken

**第114期(2023年3月期)
第2四半期 決算説明会**

株式会社 サンエー化研

2022年12月6日

目次

1. 第114期(2023年3月期)第2四半期決算概要

- 連結貸借対照表(資産の部、負債・純資産の部)
- 連結損益計算書
- 営業利益の要因分解

2. 各セグメントの概況

- セグメント別業績内訳
- 事業の内容及び概況(軽包装材料、産業資材、機能性材料)

3. 第114期(2023年3月期)業績予想と今後の施策

- 通期業績予想
- セグメント別業績予想及び今後の施策(軽包装材料、産業資材、機能性材料)
- 設備投資及び研究開発費

4. 参考情報

- 製品紹介
- 基本情報

目次

1. 第114期(2023年3月期)第2四半期決算概要

- 連結貸借対照表
(資産の部、負債・純資産の部)
- 連結損益計算書
- 営業利益の要因分解

第114期第2四半期決算概要: 連結貸借対照表(資産の部)

(単位: 百万円)

科 目	2021年3月期末 (第112期末)	2022年3月期末 (第113期末)	2023年3月期 (第114期) 第2四半期末	対前期 増減額	対前期 増減率
流動資産	22,420	22,570	22,934	363	1.6%
現金預金	7,147	7,296	7,011	▲284	▲3.9%
売上債権	11,628	10,671	10,741	69	0.6%
棚卸資産	3,605	4,269	4,969	699	16.4%
その他	39	332	212	▲120	▲36.2%
固定資産	13,567	13,376	13,085	▲290	▲2.2%
有形固定資産	7,325	7,060	6,880	▲179	▲2.5%
無形固定資産	54	47	45	▲1	▲3.7%
投資その他の資産	6,188	6,268	6,159	▲109	▲1.7%
資産合計	35,988	35,946	36,020	73	0.2%

第114期第2四半期決算概要: 連結貸借対照表(負債・純資産の部)

(単位: 百万円)

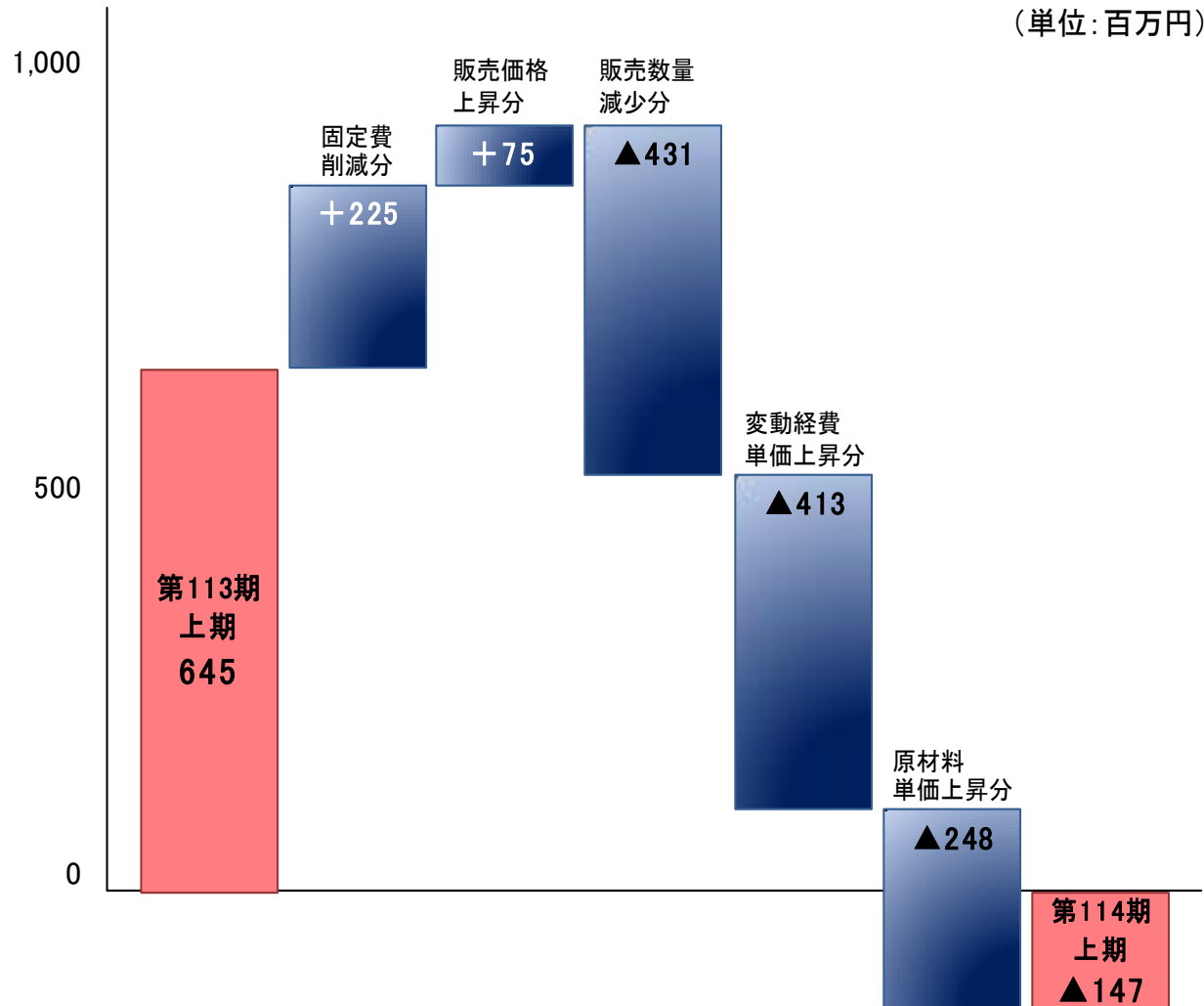
科 目	2021年3月期末 (第112期末)	2022年3月期末 (第113期末)	2023年3月期 (第114期) 第2四半期末	対前期 増減額	対前期 増減率
流動負債	12,625	12,085	12,574	488	4.0%
仕入債務	6,888	7,019	7,295	275	3.9%
短期借入金	3,470	3,530	3,540	10	0.3%
その他	2,267	1,536	1,738	202	13.2%
固定負債	3,503	2,932	2,766	▲165	▲5.6%
長期借入金	1,393	1,364	1,219	▲145	▲10.7%
その他	2,110	1,567	1,547	▲19	▲1.3%
負債合計	16,129	15,017	15,340	322	2.2%
純資産	19,859	20,928	20,679	▲249	▲1.2%
負債及び純資産合計	35,988	35,946	36,020	73	0.2%

第114期第2四半期決算概要: 連結損益計算書

(単位: 百万円)

科 目	2021年3月期 (第112期) 第2四半期	2022年3月期 (第113期) 第2四半期	2023年3月期 (第114期) 第2四半期	対前期 増減額	対前期 増減率
売上高	(13,494)	14,766	14,059	▲707	▲4.8%
売上原価	(11,924)	12,505	12,679	173	1.4%
売上総利益	1,570	2,260	1,380	▲880	▲39.0%
販売費及び一般管理費	1,413	1,615	1,527	▲87	▲5.4%
営業利益	156	645	▲147	▲792	▲122.9%
営業外収益	128	96	192	96	100.6%
営業外費用	40	15	17	2	15.4%
経常利益	245	726	27	▲698	▲96.2%
特別利益	—	27	—	▲27	▲100.0%
特別損失	4	—	58	58	—
税金等調整前四半期純利益	241	754	▲30	▲784	▲104.1%
税金費用他	69	231	▲12	▲243	▲105.4%
親会社株主に帰属する四半期純利益	172	523	▲18	▲541	▲103.4%

第114期第2四半期決算概要：営業利益の要因分解



販売面においては、機能性材料セグメントの光学用保護フィルムが、過剰在庫となった液晶パネルの生産調整の影響を受けて販売数量が大幅に減少したことが響き、4億31百万円の減益要因となりました。価格転嫁を進めているものの単価が高い光学用保護フィルムの売上減少により販売価格上昇による増益要因は75百万円に留まりました。

費用面においては、原油価格の高止まりによる原材料単価の上昇、電力・燃料費等変動経費単価の上昇が、6億61百万円の減益要因となりました。

製造経費削減や生産の合理化により固定費2億25百万円を削減しましたが、上記要因から連結営業利益は7億92百万円の減益となりました。

目次

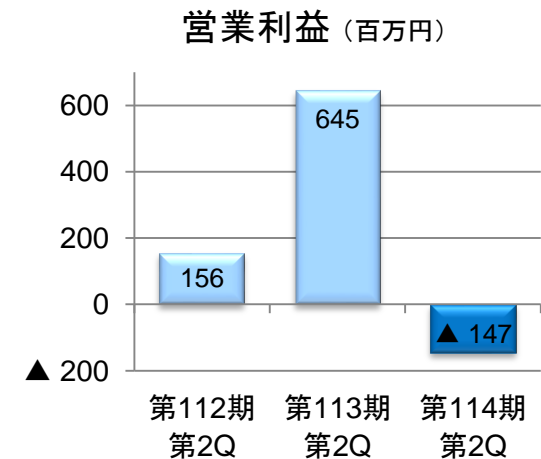
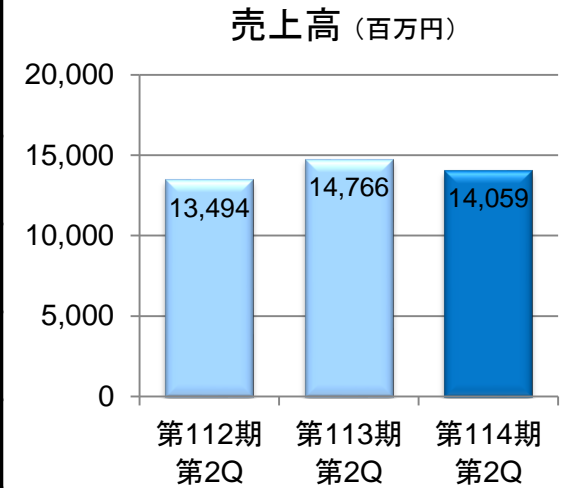
2. 各セグメントの概況

- セグメント別業績内訳
- 事業の内容及び概況
(軽包装材料、産業資材、機能性材料)

各セグメントの概況: セグメント別業績内訳

(単位: 百万円)

科目/ セグメント	2021年3月期 (第112期) 第2四半期	2022年3月期 (第113期) 第2四半期	2023年3月期 (第114期) 第2四半期	対前期 増減額	対前期 増減率
売上高	(13,494)	14,766	14,059	▲707	▲4.8%
軽包装材料	(5,894)	5,776	6,022	245	4.3%
産業資材	(3,239)	4,732	4,824	91	1.9%
機能性材料	(4,087)	4,128	3,047	▲1,080	▲26.2%
その他	(273)	129	165	35	27.8%
営業利益	156	645	▲147	▲792	▲122.9%
軽包装材料	184	273	102	▲171	▲62.7%
産業資材	▲237	15	▲189	▲205	▲1309.4%
機能性材料	202	356	▲78	▲435	▲122.0%
その他	7	▲1	18	19	—



※括弧内は「収益認識に関する会計基準」適用前の数値

各セグメントの概況：事業の内容及び概況（軽包装材料）

軽包装材料セグメント

食品、医薬品、医療器具、精密機器等の包材の製造・販売



主要顧客

- 食品製造業
- 医薬品・医療器具製造業
- 精密機器製造業
- その他製造業

生産拠点

静岡工場



奈良工場



東邦樹脂工業



各セグメントの概況：事業の内容及び概況（軽包装材料）

食品用包材

第2Q売上高
3,085百万円



「レンジDo!」、「ポロソ」、清涼飲料用パウチなどが安定した売上を支える。

市場環境

- 同業400-500社程度
- 環境対応包材のニーズ高まる

収益性・成長性

- レンジ対応食品が増加しており「レンジDo!」の需要は拡大傾向
- 業務用包材の需要回復に期待

医薬品・医療用包材

第2Q売上高
946百万円



徹底した品質管理で顧客の信頼は厚い。「テクニフィルム」の拡販に期待。

市場環境

- 品質要求厳しく新規参入困難
- 市場は拡大傾向

収益性・成長性

- 高防湿医薬品包材の需要拡大
- 高齢化の進行で医療分野は成長期待

日用品等の包材

第2Q売上高
1,991百万円



多様な製品展開で受注変動リスクに対応。独自製品の開発・拡販に注力。

市場環境

- 環境対応包材の引き合い増加
- 高機能・利便性のニーズ高い
- 一般包材は競争厳しい

収益性・成長性

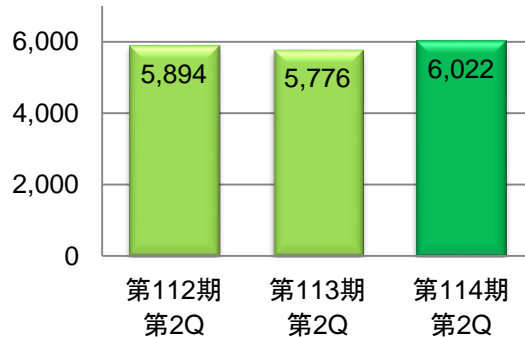
- 詰替え用パウチは多様化で競争厳しく
- 耐内容物包材は潜在需要見込める
- 環境対応製品開発を進め新市場を開拓

各セグメントの概況：事業の内容及び概況（軽包装材料）

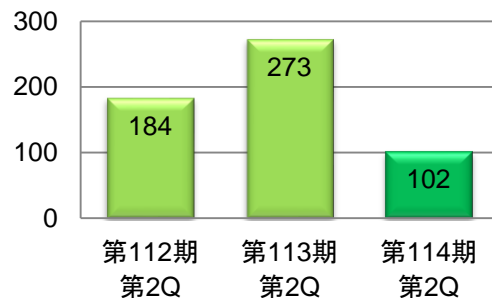
軽包装材料

- 売上高：6,022 百万円（前年同期比 4.3% 増）
- 営業利益：102 百万円（前年同期比 62.7% 減）

売上高（百万円）



営業利益（百万円）



- 行動制限の緩和に伴い社会経済活動の正常化が進み、娯楽施設や行楽地に人出が戻りはじめる。これに猛暑の影響が重なり、清涼飲料用パウチの需要が増加。
- 電子レンジ対応食品包材「レンジD。！」の販売は好調を維持。
- 人出の戻りにより化粧品用包材やハンドソープ用包材などの受注は好調。一方詰め替え用パウチの受注は減少。
- 医薬品・医療用包材は、世界的に医療機関の診療体制が正常化に向かう中で、検査用品用包材の受注が増加。
- 原材料高騰の影響を販売価格に転嫁しきれず減益。

各セグメントの概況：事業の内容及び概況（産業資材）

産業資材セグメント

粘着テープ基材及び各種剥離紙の製造・販売



主要顧客

- テープ・ラベル製造業
- プラスチック製品製造業
- 電子部品製造業
- その他製造業

生産拠点

掛川工場WEST



袋井工場



東邦樹脂工業



シノムラ化学工業



各セグメントの概況：事業の内容及び概況（産業資材）

紙・布へのラミネート製品

第2Q売上高 2,087百万円



主に粘着テープ用基材をテープメーカーに販売。

市場規模（推定）

- 重包装袋：約900百万m²/年
- 紙テープ用：約420百万m²/年
- 布テープ用：約200百万m²/年

市場環境

- 紙テープの国内生産量は横ばい
- 海外品OPPテープとも一部競合

収益性・成長性

- 一般品は生産数量確保が課題
- 布テープは防災用途で需要増が期待
- シノムラ化学工業子会社化により布テープ用基材のシェア拡大、競争優位に
- 樹脂代値上がりによる収益への影響大

剥離紙

第2Q売上高 2,736百万円



テープメーカーの他、電子・化学・自動車関連等、ユーザーは多岐にわたる。

市場規模（推定）

- 約2,700百万m²/年

市場環境

- 国内ユーザーの海外移転一服で国内需要は底打ち

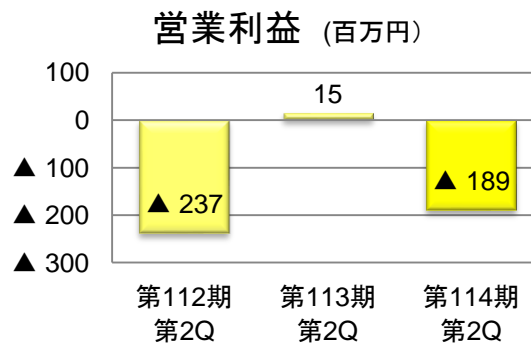
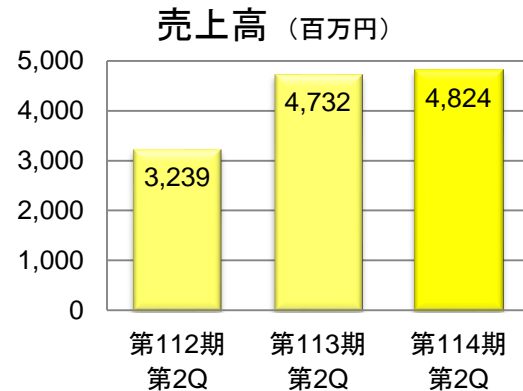
収益性・成長性

- 一般用途は競争厳しい
- 自動車関連部材用の拡販に期待
- メディカル用途の拡充を目指す
- FPC用工程紙は成長過程にあるも、IT業界の動向による受注変動大

各セグメントの概況：事業の内容及び概況（産業資材）

産業資材

- 売上高： 4,824 百万円（前年同期比 1.9% 増）
- 営業利益：▲189 百万円（前年同期実績 15 百万円）



- 紙・布へのラミネート製品については、一部テープメーカーの製品統廃合等による需給の変化や、海外製粘着テープの輸入価格上昇の影響を受けて、受注は増加。
- 剥離紙については、自動車関連部材向けが回復途上にあるなか、スマートフォンやタブレットの販売伸び悩みの影響を受けてFPC(フレキシブルプリント基板)用工程紙の受注が低迷。
- 原油価格の高止まりによる原材料価格や電力燃料費の高騰による製造原価上昇分を販売価格に転嫁しきれず減益。

各セグメントの概況：事業の内容及び概況（機能性材料）

機能性材料セグメント

機能性プラスチックフィルム（各種表面保護フィルム等）の製造・販売



主要顧客

- FPD関連メーカー
- 電気製品メーカー
- 住設機器・建材メーカー
- その他製造業

生産拠点

掛川工場



袋井工場



奈良工場



各セグメントの概況：事業の内容及び概況（機能性材料）

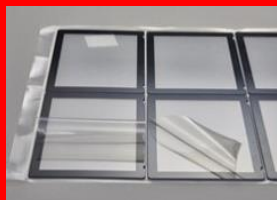
オレフィン系粘着加工品

第2Q売上高 1,269百万円

サニテクト
(粘着塗工タイプ)



PAC
(2層押し出しタイプ)



最初に生産を開始したPO系の表面保護フィルムで、用途は多岐にわたる。

市場規模（推定）

粘着塗工タイプ

- 約300百万m²/年
(光学用途)

2層押し出しタイプ

- 約900百万m²/年
(光学用途)

収益性・成長性

粘着塗工タイプ

- 品種により他社製2層押し出しタイプとも競合
- 一般用途は国内市場縮小で需要が減少傾向
- LCDパネル用途が在庫調整のため需要低迷

2層押し出しタイプ

- 偏光板用途は今後も一定の需要が見込まれ、品質面の差別化でシェアUPも可能
- 環境対策品として強粘着タイプを拡販

その他の粘着加工品

第2Q売上高 1,778百万円

SAT、
サニテクトNS
その他
(PET基材タイプ他)



PETフィルムを基材とし、品質要求レベルの高い用途に使用される。

市場規模（推定）

精密塗工タイプ

- 約500百万m²/年
(光学用途)

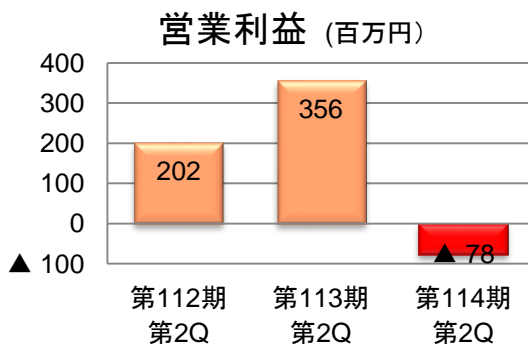
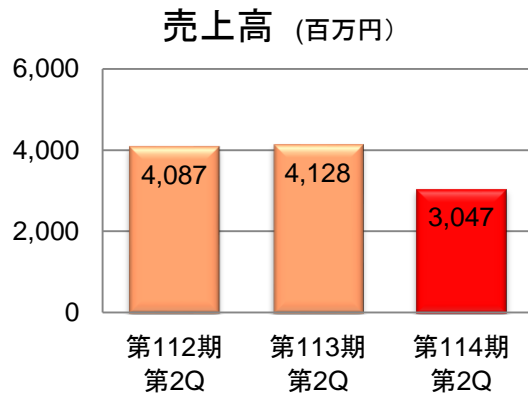
収益性・成長性

- 液晶テレビ向けの需要は、在庫調整の影響により当面不透明
- スマートフォン関連は5G、フォルダブルスマホの普及に期待

各セグメントの概況：事業の内容及び概況（機能性材料）

機能性材料

- 売上高：3,047 百万円（前年同期比 26.2% 減）
- 営業利益：▲78 百万円（前年同期比 122.0% 減）



- ウクライナ危機の長期化や中国経済の減速、各国の物価高騰の影響により、液晶テレビやスマートフォン等の販売低迷。
- 中国・上海でのロックダウンによるサプライチェーンの混乱に起因した液晶パネルの過剰在庫が、液晶パネルメーカーの大幅減産を引きおこし、これらの用途の光学用表面保護フィルムの受注が大幅に減少。
- 原油価格の高止まりによる原材料価格や電力燃料費の高騰。販売量減少による固定費率の上昇が重なり営業赤字。

目 次

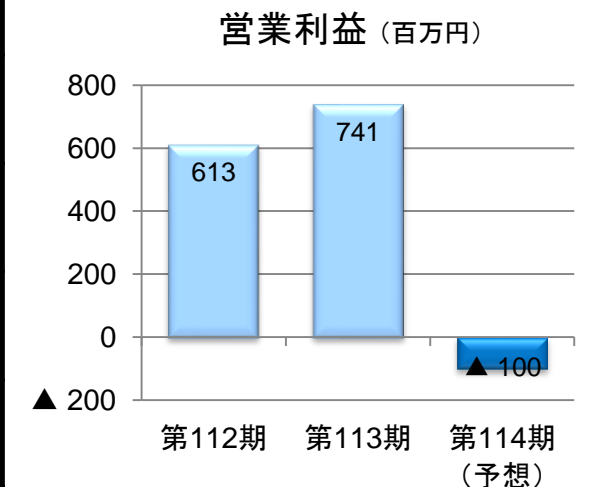
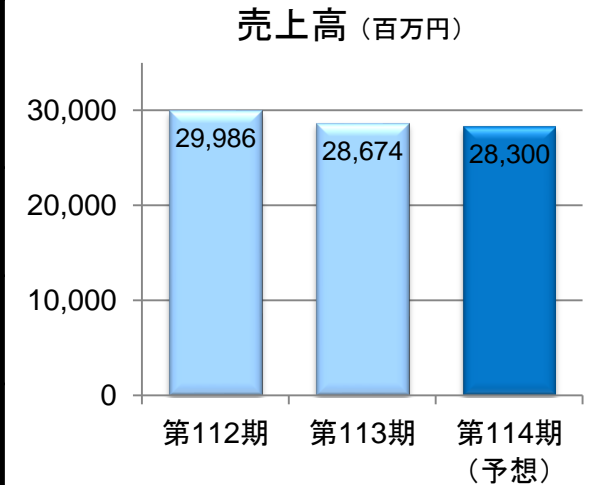
3. 第114期(2023年3月期)業績予想と今後の施策

- 通期業績予想
- セグメント別業績予想及び今後の施策
(軽包装材料、産業資材、機能性材料)
- 設備投資及び研究開発費

第114期業績予想と今後の施策：通期業績予想

(単位：百万円)

科目／ セグメント	2021年3月期 (第112期)	2022年3月期 (第113期)	2023年3月期 (第114期) (予想)	対前期 増減額	対前期 増減率
売上高	(29,986)	28,674	28,300	▲374	▲1.3%
軽包装材料	(12,000)	11,285	11,900	614	5.4%
産業資材	(8,967)	9,464	10,100	635	6.7%
機能性材料	(8,581)	7,639	6,000	▲1,639	▲21.5%
その他	(437)	283	300	16	5.8%
営業利益	613	741	▲100	▲841	▲113.5%
経常利益	906	973	120	▲853	▲87.7%
親会社株主に帰属 する当期純利益	1,101	1,515	40	▲1,475	▲97.4%



※括弧内は「収益認識に関する会計基準」適用前の数値

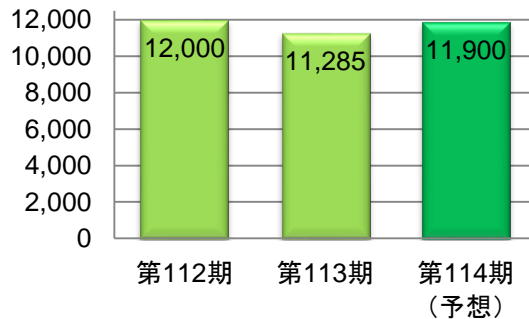
第114期業績予想と今後の施策：セグメント別業績予想（軽包装材料）

軽包装材料

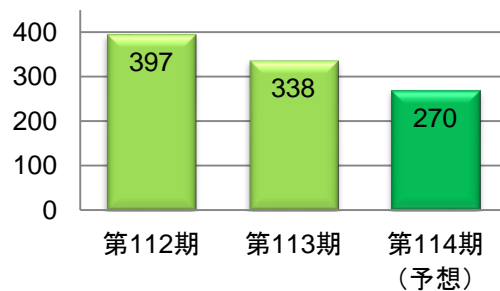
【第114期業績予想】

- 売上高： 11,900 百万円（前期比 5.4% 増）
- 営業利益： 270 百万円（前期比 20.3% 減）

売上高（百万円）



営業利益（百万円）

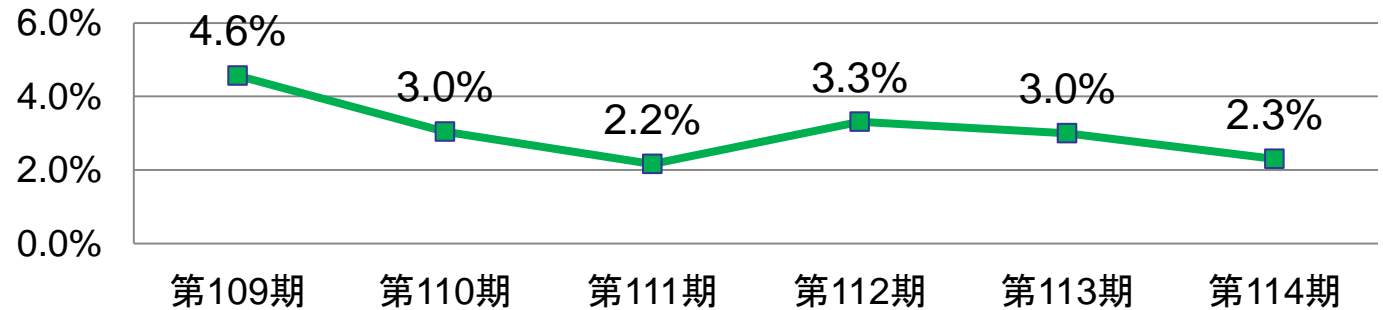


- 電子レンジ対応食品包材「レンジDo!」はレトルトタイプからの切替需要の取り込みもあり受注が増加傾向。
- 清涼飲料用パウチ、医薬品・医療用包材、化粧品用包材は、今後も堅調な売上が見込まれる。
- 脱プラスチックの流れから紙製包材の拡販を強化。
- プラスチック使用量削減の流れからボトルタイプからの切替需要を取り込み耐内容物包材の受注が増加傾向。

第114期業績予想と今後の施策：今後の施策（軽包装材料）

軽包装材料

営業利益率の推移



※第113期以降は「収益認識に関する会計基準」適用後の売上高に対する利益率（予想）

- 今後も堅調な需要が見込まれる電子レンジ対応食品包材「レンジD○！」の市場開拓を継続し、需要の創出を図る。
- リサイクルしやすいモノマテリアルタイプのエア緩衝材を早期に商品化し受注獲得を目指す。
- 環境負荷の低いバイオマスプラスチックや生分解性プラスチックを使用した包材、紙を主体とする包材の開発を推進し拡販を図る。

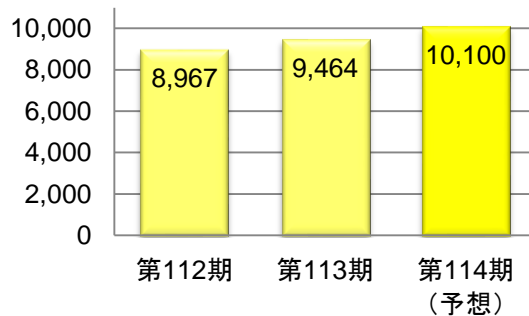
第114期業績予想と今後の施策：セグメント別業績予想（産業資材）

産業資材

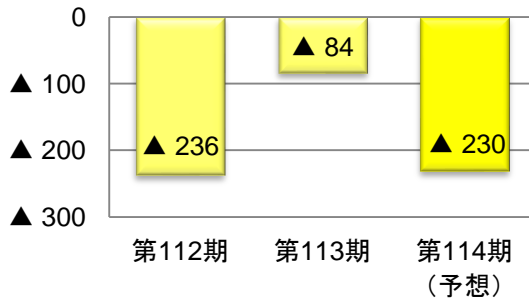
【第114期業績予想】

- 売上高：10,100 百万円（前期比 6.7% 増）
- 営業利益：▲230 百万円（前期実績 ▲84 百万円）

売上高（百万円）



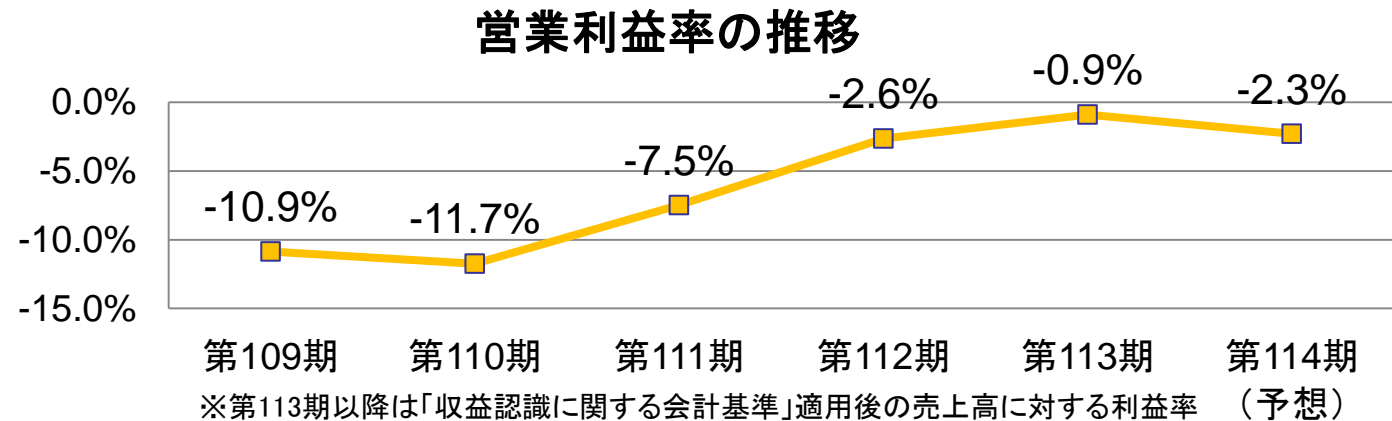
営業利益（百万円）



- テープ用基材については、養生用テープ向けは前期並み。梱包用テープ向けは、一部テープメーカー撤退による需要の取り込みを図る。
- 剥離紙については、半導体や部品不足の影響から自動車部品関連やFPC用工程紙の回復が鈍く、ラベル用等の一般用途は回復基調。
- シノムラ化学工業との協調体制の整備を進め、収益改善を目指すも、原材料費の高止まりにより赤字継続の見通し。

第114期業績予想と今後の施策：今後の施策（産業資材）

産業資材



- 目止め層としてポリエチレンをラミネート加工しないことにより環境負荷が低い剥離紙「エコセパ」の拡販に努める。
- 連結子会社シノムラ化学工業株式会社との間で生産、営業、管理などの機能統合を進め、シナジー効果創出を図る。
- 今後も成長が見込まれるIT関連、自動車関連、メディカル分野に向けた製品展開を推進するとともに、炭素繊維関連製品や環境対応製品の開発にも注力する。

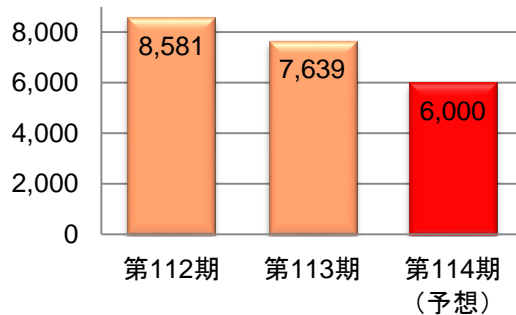
第114期業績予想と今後の施策：セグメント別業績予想（機能性材料）

機能性材料

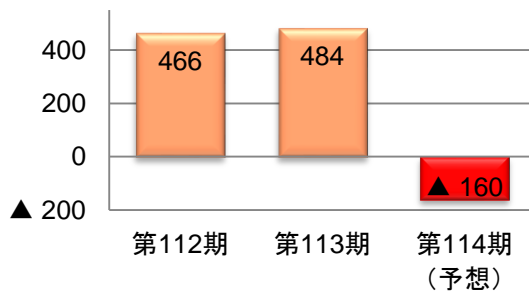
【第114期業績予想】

- 売上高： 6,000 百万円（前期比 21.5 % 減）
- 営業利益：▲160 百万円（前期比 133.0 % 減）

売上高（百万円）



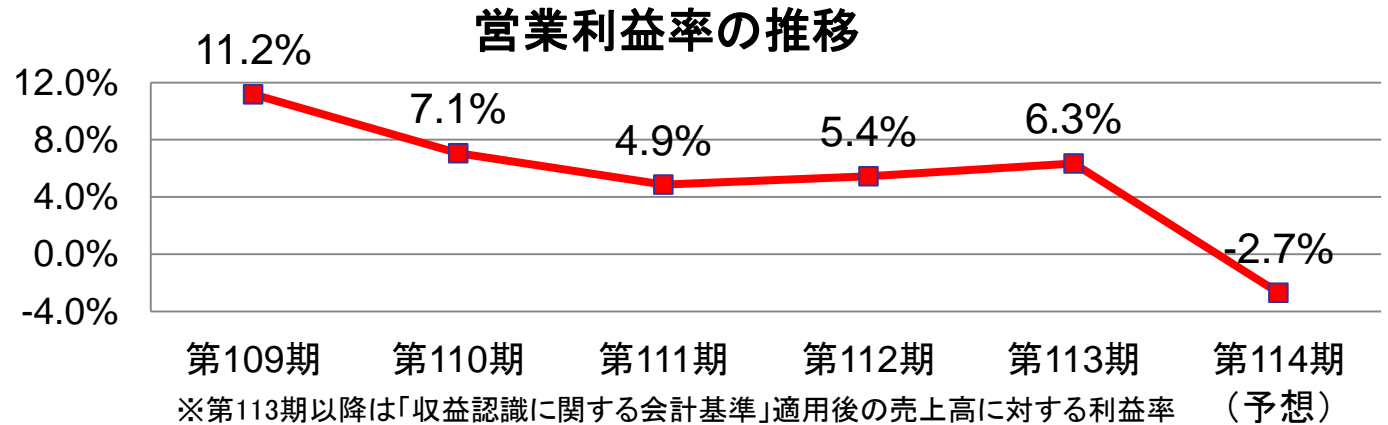
営業利益（百万円）



- 光学用途全体の動きが弱く、年明けから来春の受注回復を見込む。
- スマートフォン市場は、5G対応及びフォルダブルタイプの普及による成長が期待されており、その分野での「SAT」の需要増を見込む。
- 原材料費高騰による減益要因を価格転嫁を進め利益確保を図ったが、減収の影響が響き減益の見通し。

第114期業績予想と今後の施策：今後の施策（機能性材料）

機能性材料



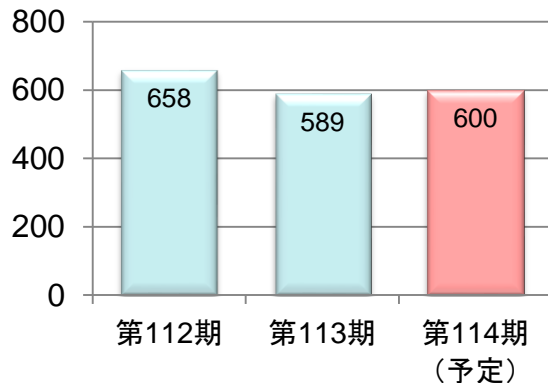
- 環境対策品として独自技術による表面保護フィルム「サニテクトNSタイプ」の拡販に努める。
- 金属用途及び特殊加工用途向け「サニテクト」の拡販に努める。
- 光学用途向けの需要回復までの間、人員配置の見直し及びロス削減等を含むより一層の生産合理化に注力する。

第114期業績予想と今後の施策：設備投資及び研究開発費

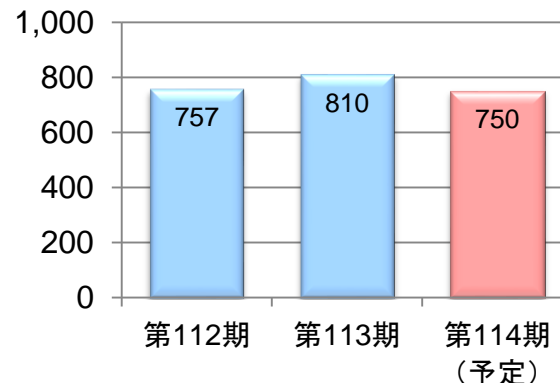
(単位：百万円)

科目	2021年3月期 (第112期)	2022年3月期 (第113期)	2023年3月期 (第114期) (予定)	備考
設備投資額	658	589	600	従来水準を維持
減価償却費	757	810	750	従来水準を維持
研究開発費	428	417	400	従来水準を維持

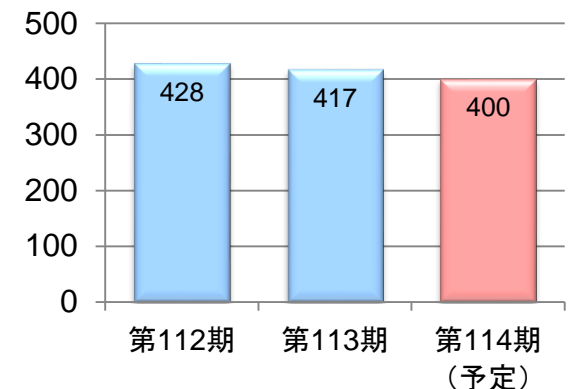
設備投資額 (百万円)



減価償却費 (百万円)



研究開発費 (百万円)



目 次

4. 参考情報

- 製品紹介
- 基本情報

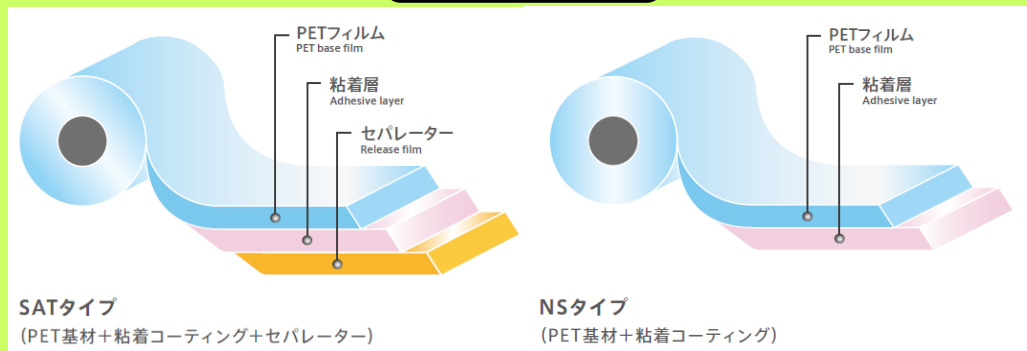
参考情報: 製品紹介 1

■ 表面保護フィルム「サニテクトNSタイプ」

特長

- セパレーター(剥離フィルム)のないテープ状に巻かれた製品形態
- 光学用PET保護フィルムとして、当社「SAT」に近い品質水準
- 独自の加工技術により、長尺巻きでも気泡混入のない他社が真似できないレベルの製品仕上がり
- PETの厚みは25μ mから125μ mまで対応可能、PET38μ mでは最長4000mの長尺巻きに対応
- セパレーター不使用により輸送効率向上や廃棄物削減の効果があり、CO₂排出量の抑制に貢献
(偏光板用保護フィルムではPET使用量を約35%削減)

構成比較



巻取り



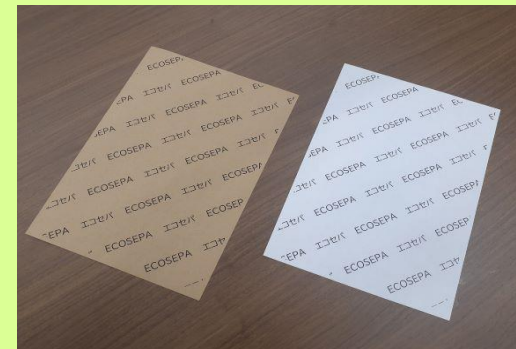
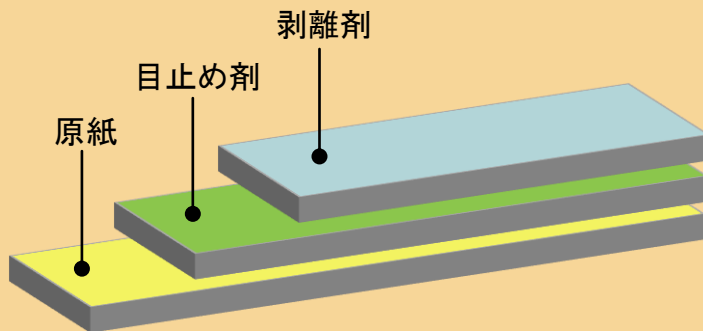
参考情報：製品紹介 2

■ 環境対応型剥離紙「エコセパ」

特長

- 目止め層としてポリエチレンをラミネート加工しないことにより、容易にリサイクル可能
- ポリエチレンラミネート加工の剥離紙とほぼ同等の性能、品質を実現
- 剥離性が 軽・中・重 の3タイプの製品をラインアップ
- 製品幅は約1600mmまで対応

構成



カットサンプル

参考情報: 基本情報

2022年9月30日現在

商 号
 証 券 コ ー ド
 設 立 者
 代 表 者
 事 業 所

株式会社 サンエー化研
 4234 (東証 スタンダード)
 1942年9月 (昭和17年9月)
 代表取締役社長 山本 明広
 本 社 : 東京都中央区日本橋本町1-7-4
 営 業 拠 点 : 東京、大阪、名古屋
 【海外】台湾、中国上海 (連結子会社 灿櫻(上海)商貿)
 生 産 拠 点 : 静岡、袋井 (2カ所 内1カ所は連結子会社 シノムラ化学
 工業(株) 本社工場)、掛川(2カ所)、天理、野木(連結子
 会社 東邦樹脂工業(株) 本社工場)

資 本 金
 事 業 内 容
 連 結 従 業 員 数
 決 算 期

研究開発拠点 : 掛川
 21億76百万円
 高付加価値プラスチックフィルム・包材の製造・販売
 714名
 3月31日

業績予想は、本資料の発表日現在(2022年12月6日)において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

お問い合わせ先

株式会社 **サンエー化研**
経営企画室

Tel:03-3241-5702 Fax:03-3241-5719

E-mail:keiki@sun-a-kaken.co.jp